

ETFは世界中で約5,500本が上場され、機関投資家・個人投資家の双方に活用されており、その規模は2.9兆ドル（約340兆円）を超えています。

ETFは株式市場で株式のように取引される一方で、上場「投資信託」であり、投資信託としての資金の出入りが日々発生\*\*しています。世界中で様々な投資家が利用しているETFの資金流出入は、世界の投資家の動向を探る上でも有用な情報になると考えられます。

当レポートでは、世界のETFの資金流出入の状況をまとめ、それらから見えてくる世界の投資家動向についてご紹介していきます。

\*ETF(Exchange Traded Fund)のほか、ETN(Exchange Traded Note)、ETC(Exchange Traded Commodity)、ETI(Exchange Traded Instrument)等の上場金融商品を含みます。

\*\*ETF独自の「設定／交換」と呼ばれる現物バスケットと受益権の受け渡しによりETFへの資金流出入が発生します。（すべてのETFが現物での設定／交換を行うわけではありません）

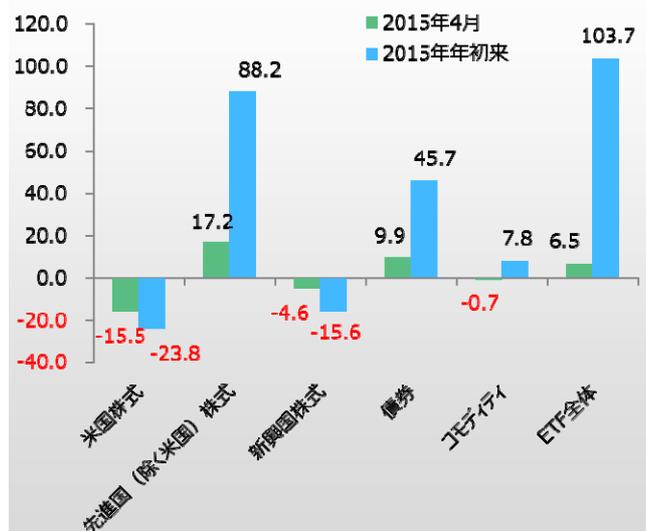
## 2015年4月のETF資金流出入 ～米国株からの流出が加速～

2015年4月の世界のETFの資金流出入は、65億ドル（約0.8兆円）の流入となりました。

米国株式については株式市場は堅調ながらもETFの資金動向では強弱入り混じった結果となりました。原油価格の上昇を受けたエネルギーセクターなど一部の業種別ETFに資金流入が見られましたが、大型株や小型株のETFからは資金流出が生じています。先進国株式については引き続き欧州、日本への資金流入が続いています。新興国株式は中国A株からの流出が継続していますが、割高感の少ないH株には流入しています。また、新興国市場全体に投資を行なうETFは、昨年8月以来となる流入（25億ドル）となりました。

中旬に発表されたIMFの世界経済見通しでは米ドル高を受けた米国経済の成長率が下方修正され、米国国債を中心に債券ETFへ資金流入が加速しました。

【世界のETFの資金流出入（十億ドル）】



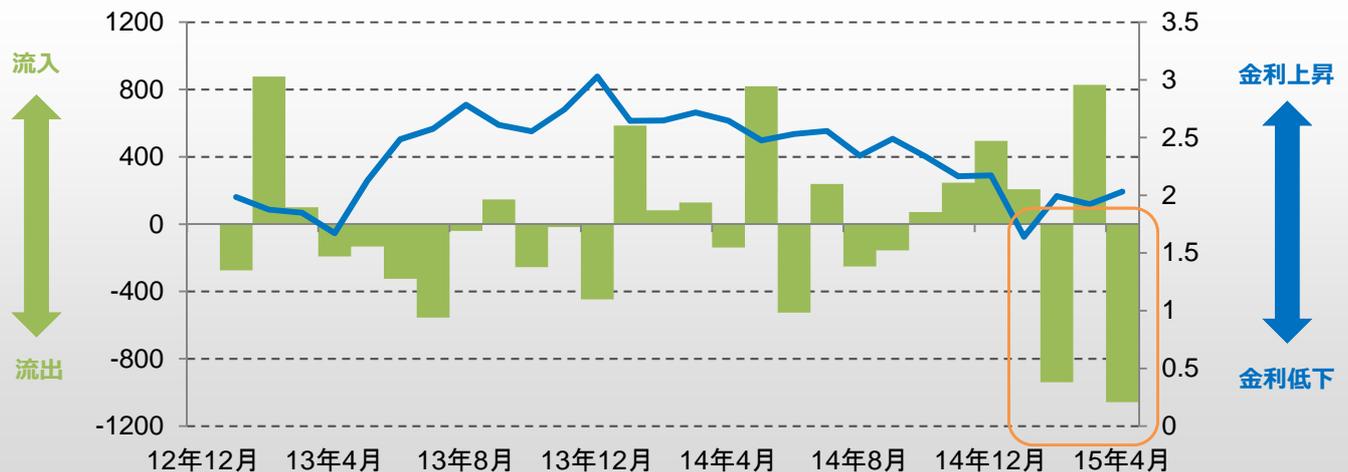
出所：ETP Landscape Apr 2015, BlackRock

当資料は情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。当資料は当社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、当資料中の各種情報は過去のものであり、今後の運用成果を保証するものではなく、当資料を利用したことによって生じた損失等について、弊社はその責任を負うものではありません。さらに、本資料に記載された市況や見通しは作成日現在の当社の見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。

ETFから見る世界の投資家動向 ～再び意識され始めた金利上昇～

米国リートETFの月次資金流出入額  
(単位：100万ドル)

米国10年国債利回り  
(%)



出所：ブラックロック、ブルームバーグ

このところ米国リートETFからの資金流出が拡大しており、4月には月間で過去最大の10億ドル超の流出となりました。年初からの原油価格の反発を背景とした、デフレ効果の剥落を織り込んだ金利上昇が理由の一つと考えられます。2013年に米国の金融緩和の縮小が観測された際と同様に、国債利回りリートとの格差縮小やリートの資金調達コストの上昇などへの懸念により投資家が資金を引き上げているようです。また、債券ETFの分野では4月にはインフレ連動債に2年ぶりの大型の資金流入が見られるなど、金利上昇を意識した投資行動が目立つ月となりました。

金利上昇はリートにとってネガティブな要因の一つですが、良い金利上昇、つまり景気拡大を伴う金利上昇であればポジティブな面も期待できます。一般的に景気拡大期には不動産需要の拡大や物価の上昇に合わせて賃料の引き上げ等が見込めるため、金利上昇を打ち消す効果が期待されます。相対的な利回りの高さが魅力のリートですが、ETFの資金動向を見る限り、価格上昇が期待できるマーケット環境が近づいているようです。

**ETFの主な投資リスクについて**

ETFは投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。連動を目標とする指数、組入れ有価証券の価格変動、金利及び外国為替の変動等の要因によりETFの価格は変動することから、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

ETFの価格が変動する要因や変動の大きさは、各商品及び各商品が連動を目標とする指数等により異なります。優先株は金利上昇等により価値が減少する場合があります。また配当の支払いは保証されていません。満期到来、償還、繰上げ償還、転換などによってファンドの利回りの低下を招く場合があります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなります。不動産投資信託（REIT）への投資は経済状況の変化や信用リスク、金利変動の影響を受けます。

**手数料、費用等について**

【売買時の手数料】 当ETFを売買する際の手数は取扱い金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは取扱会社までお問い合わせください。【保有時の費用】 当ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。保有時の費用の率（総経費率）は個別のETF/JDR毎によって異なり、また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。詳細は取扱い金融商品取引業者（証券会社）にてご確認ください。またiシェアーズのウェブサイト（<http://www.blackrock.com/jp/ishares>）にて当ETFに関する情報を開示しております。